

---

# 270分

駆牙 蓮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

270分

### 【Zコード】

N9183Y

### 【作者名】

駆牙 蓮

### 【あらすじ】

オペ室看護師である成海大和は、親友であり同期の看護師の進藤雅樹に報われない恋をしている。長年の友情を壊したくないが、苦しい想いは募つていい。

「始業時間一分前」

寝癖もろくに直さないままいつも通り青い帽子を被り、出勤簿のソフトの入ったパソコンをクリックする。そんな俺の横で笑いながら画面を覗き込むのは、同期の進藤雅樹。通称マサ。高い身長と、それを持て余した様な猫背が印象的だ。

「・・・間に合えば何時でも一緒だつての」

俺は成海大和。通称ナル。マサとは同期の看護師だ。看護師と言つても病棟ではなく手術室で働いている。

「ナルんとこは今日何のオペ？」

「スペイン」

「・・・ダリイな。頑張れよ」

「おー」

マサは大学時代からの付き合いで、かれこれ七年目だつたりする。そして三年越しの俺の不毛な片想い。

女ばかりの看護学部だったから、マサと仲良くなるのに時間はかからなかつた。一緒にバスケ部入つて、毎日バカやつて。彼女いる時もマサといふ方が楽しくて、それが原因で喧嘩したりフラれたりもした。だから誰と付き合つてもいつも長続きしない。

それに比べて、マサはもう彼女と五年も続いている。二つ下のバスケ部のマネージャーだ。俺の不毛な恋は、今年同じ職場にマサの彼女が就職してきた時点で更にどん底だつた。

「・・・移動希望出そうかな」

「何か言つたか？」

患者の入室を入口で待ちながら呟いた独り言が、同じくすぐ近くで待機していたマサに聞かれていた様だ。

「何でもねーよ」

毎日毎日、腕の悪い外科医に偉そうに怒鳴られたり、更年期の口  
煩い上司に嫌味を並べられたり。 いい事ねーよなあ。

「あ、そうだ。今日金曜だろ。明日勤務じゃねーよな。飲みに行か  
ね?」

「・・・お前のカノジョに怒られねえの?」

「そう言つて、ナル全然遊んでくれなくなつただろ。今日はバスケ  
部に顔出して、そのまま飲むぞ。な、決まり」

目を細めて笑うと、マサはそのまま入室してきた患者を連れて担  
当の手術室に向かつて行つた。

いい事も、あるもんだな。

この気持ちが不毛な物である事には変わらないのだが。それでも、  
一番大事な同性の友人と思つてもらえるだけで。それだけで俺は十  
分なんだ。

酒は、驚く程早く身体にまわつていった。

「ナル、大丈夫か？」

大丈夫、じゃない。激しい運動の後、しかもかなりの空腹。さら  
に喉の渴きが勝つて酒をどんどん流し込んでしまった。

日々の仕事のストレスと最近の睡眠不足。あとは久しぶりにマサ  
と飲んでる事。全てが悪い方向に行ってしまった様だ。

「・・・気持ち悪い。頭も痛てえ」

「もう帰るか。代行呼ぶからちょっと待つてろよ  
言つてマサが立ち上がる。

もう無茶をして酒に漬れる歳でも無いのに。何よりせっかくのマ  
サとの飲みだったのに。情けなくて涙が出そうだ。・・・呆れられ  
たかな。いや、呆れられて当然だ。

反省点は山ほどあるが、とりあえず今は横になりたい。なんだか  
寒気もしてきた。明日が土曜で本当によかつた。

「ナル。代行來たから。鍵出せるか？」

「んー・・・」

店までは俺の車で來たから、帰りは代行でマサン家回りで降りし  
て帰る予定だった。

車までマサに支えられながら覚束ない足どりで向かう。・・・慣  
れた車の振動がひどく気持ち悪い。

「ナル。お前らしくねーなあ。本当に大丈夫か?ただでさえ最近  
様子おかしかつただる」

「・・・バレてる。そりやあお前とお前の彼女が一緒に働く所なん  
て見たくないに決まってんだろ。でも今は言い訳する元氣もねーか  
ら。」

「あつ、すみません。一人っこで」

マサの話し声が聞こえる。ああ、もう着いてしまったのか。目を

開けるのも喋るのもしないから、もうこのままいいや。若干夢か現実かも分からないし。

「 やつぱり、ここで一人降ります。停めてください」

「 ……ん? 」

「 ほら、エレベーターまで頑張れって。ナル、そんなデカイ身体は担がねーぞ」

何でマサン家に?まあいいや。もうどうでも

翌朝、目が覚めると一〇酔いらしい頭痛と、何故か酷い寒気に襲われていた。不思議な事には額に冷えピタまで貼つてあるではないか。

「えーっと……」

ここはマサン家、マサのベッド。昨日マサと呑んで、俺が勝手に潰れたんだよなあ。

「 げつ、12時半? ! 」

「 ナル、起きた? 大丈夫か? 」

時計の針に驚いた所で、ハーフパンツとTシャツといつた出で立ちのマサが台所から盆を提げてやって来た。そういえば俺も同じ様な格好に着替えているではないか。マサがしてくれたのか?

「 お前、完璧力ゼ引いてんだよ。通りでおかしいと思った。雑炊作つたから喰つて寝とけって」

優しい味の鮭と卵の雑炊は、食欲が無い胃の中にもすんなりと収まってくれた。

そういえばマサは昔から面倒見が良かつたっけ。身も心も弱つている今の状態では、気を抜けばうつかり涙が出そうだ。

「 ホント、『メン』

「 らしくねえこと言つてねーで、早く寝て治せつて」  
言つてポンポンと叩かれた頭が熱いのは、熱のせいにすることにした。

その土日はすっかりマサの世話になり、月曜日の出勤には体調は元通りとなっていた。実際一人暮らしの身には風邪つむきは辛い。だけどこの看病は予想外の事態を引き起こしていた。

「え？ ケンカですか？」

「そうよー。進藤くんと杏奈ちゃん。困るわあ、今日は同じルームなのに」

一個上の看護師の先輩が朝っぱらからぼやいてきたのは、どうやらマサと彼女のケンカ騒ぎらしい。

「何ですか？ マサとかんま怒つてんの見たことないすけど」「まあ怒つてんのは杏奈ちゃんの方なんだけど。なんか付き合って五年記念日を進藤君がドタキャンしたらしいわよ」

「へ？」

全くの初耳だ。じゃあなんだ。この連休、アイツは彼女との記念日すっぽかして雑炊なんか作つてたつて事か？！

「何でも、自宅で風邪引いてる友達の看病してるからとか言つたらしいのよ。さすがに怪しつて言つか、どこの女連れ込んだのよつてハナシで……」

・・・俺ですけど？！ でかマサもちゃんと説明しあよー・ああ、風邪は治つたのに頭が痛い。

「てか第一、マサが浮気とかする筈ないじゃないですか。あんなクソ真面目、そうそういないですよ」

「そうねー。遊び人の成海くんと違つてマジメよね

「んなつ？！」

なんだと？！ 確かに誰と付き合つても長続きはしないけど、それは一途の裏返しだつての。

「・・・まあいいすよ」 とりあえずマサに話を聞こう。そんで必要なら俺からアイツの彼女に説明をしよう。それから

「別れた」

「へえっ？！」

思わず上擦ったマヌケな声を発してしまった。月曜日も時間が合わず、火曜日も俺が遅出で、水曜日はマサが準夜で、やつと時間が取れそうな金曜日。かなり延長したマサの付いた手術が終わるのを待ち、片付けも待ち、やつとロッカールームに入つて来たマサの第一声がソレだつた。

「どうしたんだよ。やつぱりこないだの記念日すっぽかしてケンカしたのが原因？」

「知つてたのか」

マサは俺が知らないと信じていたのか、心底驚いた顔をした。

「なあ、あれは誤解だつて俺からちゃんと説明して　」

「いや、いいつて。きつかけはアレでも、それだけが原因じやねーし」

「でも・・・」

片想いは辛いけど、別れたさせたかった訳じやない。マサに辛い思いはさせたくないのだ。この複雑な男子の純情。

「整形の太田先生と付き合うんだつてよ」

はい？！一瞬で頭に血が上るのを感じた。

「俺といてもドキドキしなくなつたんだ。五年記念を祝う筈だつた日に太田先生に食事に誘われて行つたら好きになつたらしい」

人事っぽく苦笑いで話すマサに掛ける言葉が見つからない。ヒテーよ。太田なんてチビデブな上、オペも下手で嫌味で偉そうで。乗り換えたのも絶対『医者』っていう肩書き担当だろ。マサ程いいヤツいねーのに。

「何でお前が泣いてんだよ」

「え？」

知らない内に涙が頬を伝っていた様だ。止めようにも、それでもなお溢れてくる涙を、俺はこの時止める術を知らなかつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9183y/>

---

270分

2011年11月29日19時51分発行